

体外受精法を検討中の患者への看護支援
～体験者からのアンケート調査を踏まえて～

◎村上純子（むらかみじゅんこ）¹⁾

福田愛作（ふくだあいさく）¹⁾ 森本義晴（もりもとよしはる）²⁾

1) IVF 大阪クリニック 2) HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

体外受精法を検討中の患者の自己決定を支援することを目的に、体外受精法治療中の患者の意思決定を振り返るアンケート調査を実施したので報告する。

【方法】

A 院で体外受精法治療中患者 100 名を対象に治療開始前や治療中に患者が感じた事や体験について調査した。アンケート結果を後日発表する事について了承のもと、倫理的配慮のうえ匿名のアンケートを実施した。アンケート結果を、体外受精法による治療を検討している患者会で伝え、反応や意見を確認した。

【結果】

アンケート回収率 96%、治療開始前に「たくさん話し合った夫婦」「少し話し合った夫婦」は 96%に対し「あまり話し合わなかった夫婦」は 7%だった。また「治療検討中患者へメッセージを」と記述式を設けたところ 43%の患者が記入した。その内容は「なるべく早く若いうちに始めるのが良いと思う」「後悔しないように挑戦できる間は頑張るといいと思う」等の意見があった。これらの結果を患者会で伝えたところ、「知りたい情報や知識が聞けた」との反応が得られ、患者会に参加した夫からは「女性の気持ちを少し理解することが出来た」との意見があった。

【考察】

アンケート調査は体外受精法治療中患者が自身の治療経過を振り返り、体験者として治療検討中患者への助言や意見を表出する機会となった。アンケート結果は実際に治療を受けた患者の生の声であり、体外受精法を検討している患者の自己決定のおおきな助けとなると考えられる。

【今後の課題】

今回得られたアンケート結果は患者会参加者のみに限られており、院内設置や配布にて、より多くの体外受精法を検討中の患者へ伝える方法を検討したい。